

経済学は悲しみを分かち合うために

日本社会事業大学学長・東京大学名誉教授

神野直彦

2019年6月20日

1. 「点」を知り、「状況」を理解する

(1)人間には「点」がある。

- ・「点」には長さも、面積もない。ただ位置だけを示している。
- ・人間には、その人間を人間たらしめ、位置だけを示す「点」がある。
- ・職業は演技にすぎない。
- ・人間は妥協なしには生きてはいけなけれども、妥協は「点」を見失わない限りにおいてするものである。

(2)学問は「点」を創り、「状況」を理解するために学ぶ。

- ・学問は実感を批判し、真理を学ぶことである。
- ・実感を批判するとは、視点を変えること。
- ・「状況」を批判することは、単に知識を整理し、体系立てるだけではなく、自己の「生」を結びつけて、初めて理解するということができる。

(3)部分ではなく、全体を

- ・科学は部分真実だけを見ようとしているという限界を認識する。
- ・ジグソーパズルの小片しか見ていないことを認識して、隣接領域と常に摺り合わせようとする。

2. 真理の追求と価値観

(1) マックス・ウェーバー(Max Weber)の没価値性

＝社会科学は事実認識に徹するべきで、価値判断から自由であるべきだ。

(2) 恩師の遺言―「東京に戻る日」―平成九年八月二〇日

人々のやさしさと愛につつまれた至福の時間、その時間ももうずっと前のようだ。またもう繰り返されることはないだろう。

来年もまたここへ来られるだろうか。それは難しい。虫のよい注文。最後の見納めに家の回りをめぐる。

石に腰をかけて我が家を見ながら、ふと涙が流れてくる自分を叱責する。

来年こられるかどうかわからないまま、山小屋の増築プランを妻がねっているのを悦んでいる私。

私がこられなくなっても、ここを訪ねてきてくれよ、私の友人達。

妻を元気づけてやってくれよ。私の友人達。

私にとっては生と死は同じものの裏表。悲しくもつらくもない。大きな、いや少人数の人々のささやかなそれでもよい。愛につつまれて生きるほど幸せなものはない。

愛につつまれて死ぬほど幸せなことはない。

(3) 社会科学では自己の人間観なり、社会観なりを選び取らざるをえない。

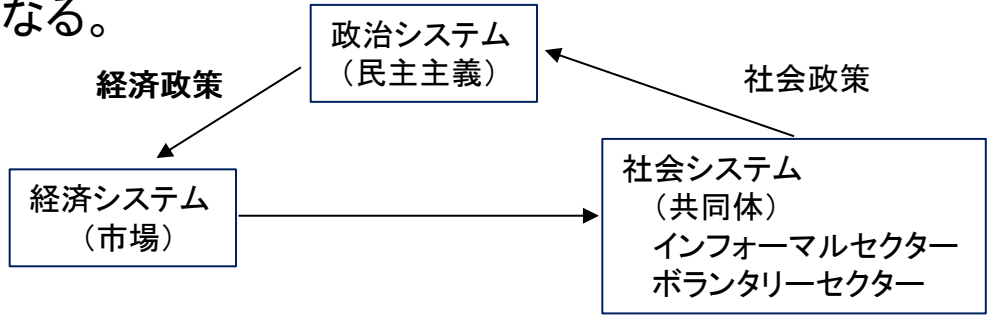
研究者は自己の自由な選択で、人間観を選び取るが故に、自己の学問に対する歴史的責任を引き受けなければならない。

(4) 財政学を通じて選択した人間観

＝人間は悲しみを「分かち合い」、優しさを「与え合い」ながら生きていく存在。

3. 近代市場社会を財政社会学からアプローチする

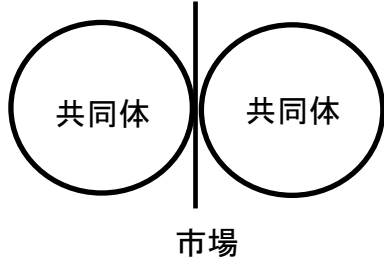
(1)三位一体が三角形となる。



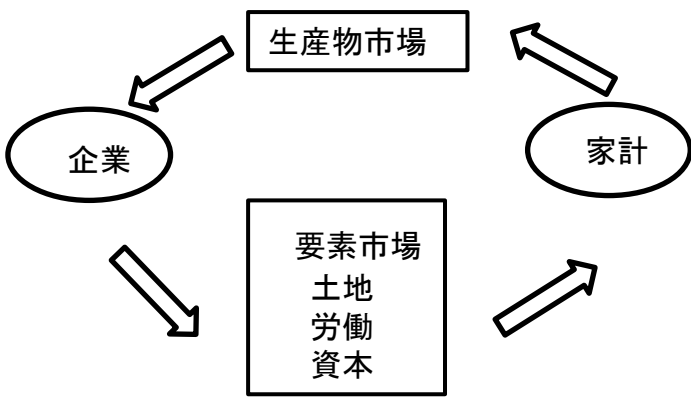
(2)分離している経済システム(生産)と社会システム(生活)と民主主義で統合する。

(3)市場社会は要素市場が存在する社会

・市場は共同体と共同体の間に存在する



・要素市場と生産物市場



4. 歴史の「峠」としての「危機(Crisis)」

(1)二つのレーラム・ノヴァルム(Rerum Novarum)

・1991年のヨハネ・パウロ2世の「レーラム・ノヴァルム」の副題

「社会主義の弊害と資本主義の幻想

(Abuses of Socialism and Illusions of Capitalism)」

・1891年のレオ13世のレーラム・ノヴァルム

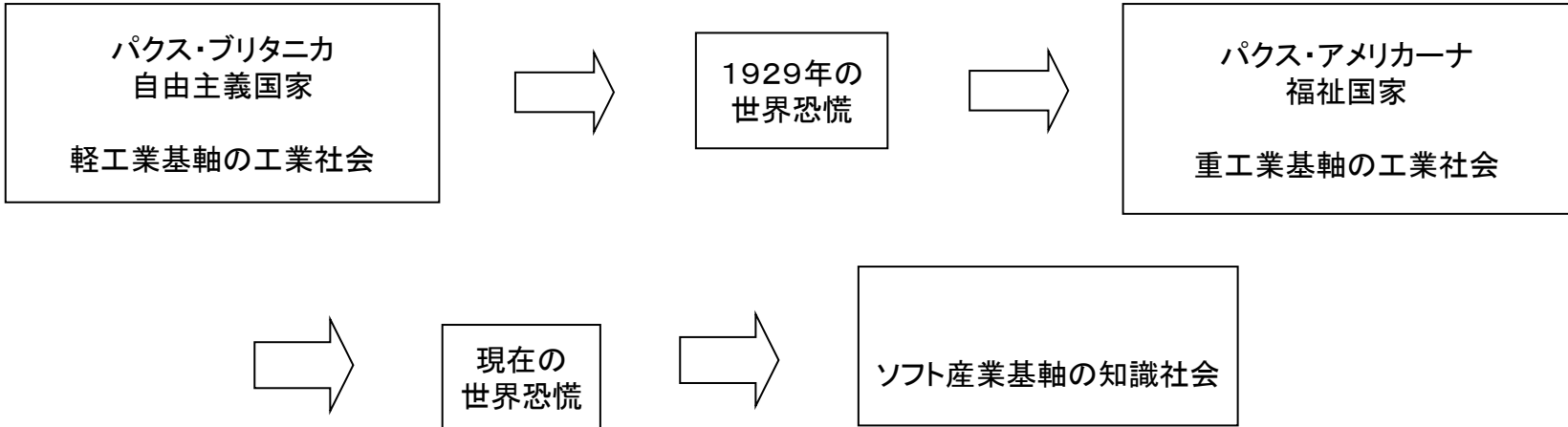
「資本主義の弊害と社会主義の幻想

(Abuses of Capitalism and Illusions of Socialism)」

(2)二つの環境破壊

・自然環境の破壊 ・人的環境の破壊

(3)重化学工業基軸の工業社会からソフト産業基軸の知識社会へ



5. 「社会保険国家」から「社会サービス国家」へ

(1) 工業社会の社会保障からポスト工業社会の社会保障へ銕直す

重化学工業を中心とする工業社会では、同質で大量の筋肉労働を必要としたため、主として男性が賃金を稼得し、主として女性が家族内で育児や高齢者ケアなどを担うという家族を前提にできた。

そのため高齢退職や疾病などの正当な理由で、賃金を喪失した時に賃金代替の現金を給付する社会保険で国民生活を保障することができた。

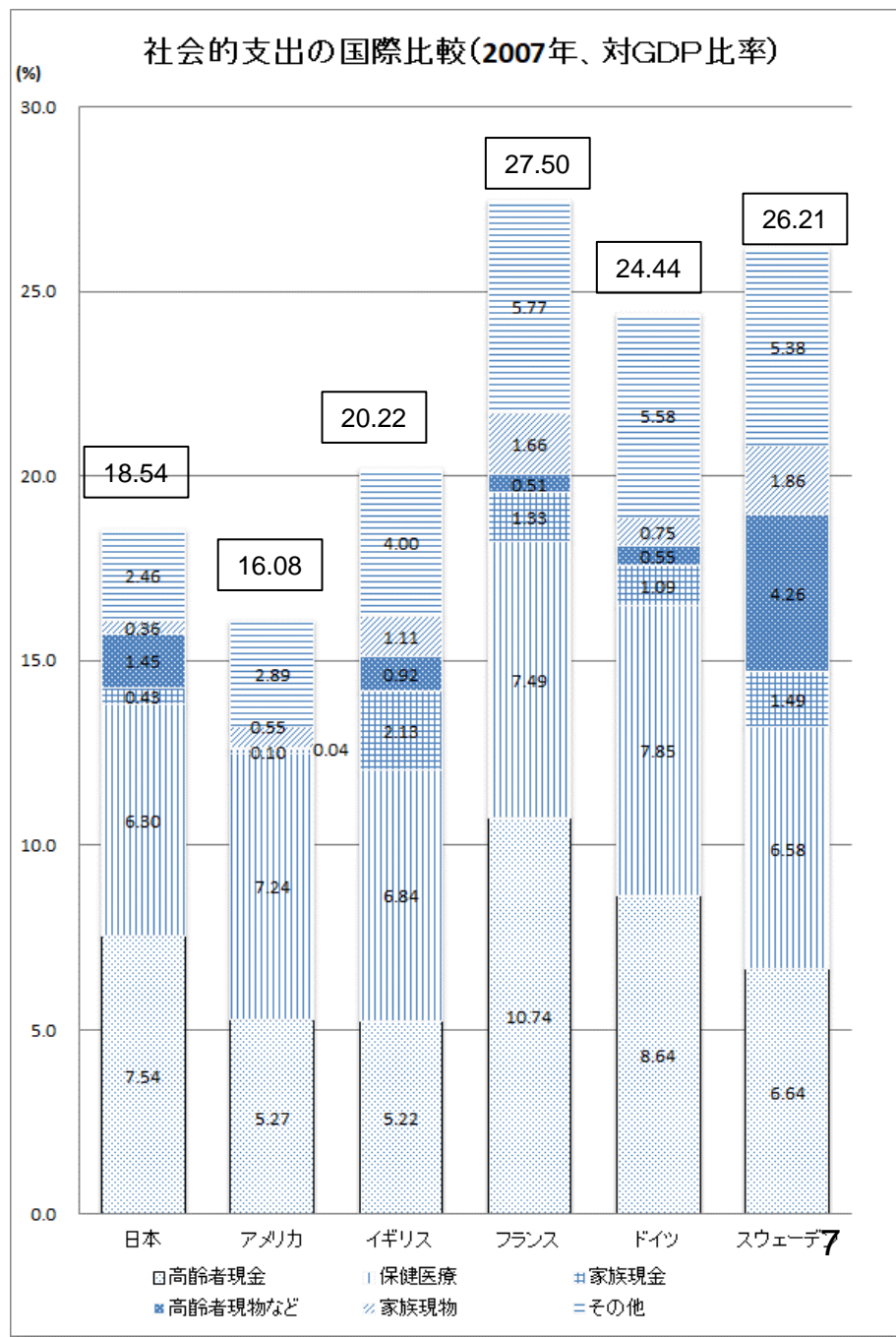


サービス産業や知識産業を中心とするポスト工業社会では人間の掛け替えのない多様な能力が必要となるため、女性の労働市場への参加が急速に進み、家庭内で無償労働に従事する女性が姿を消すようになる。

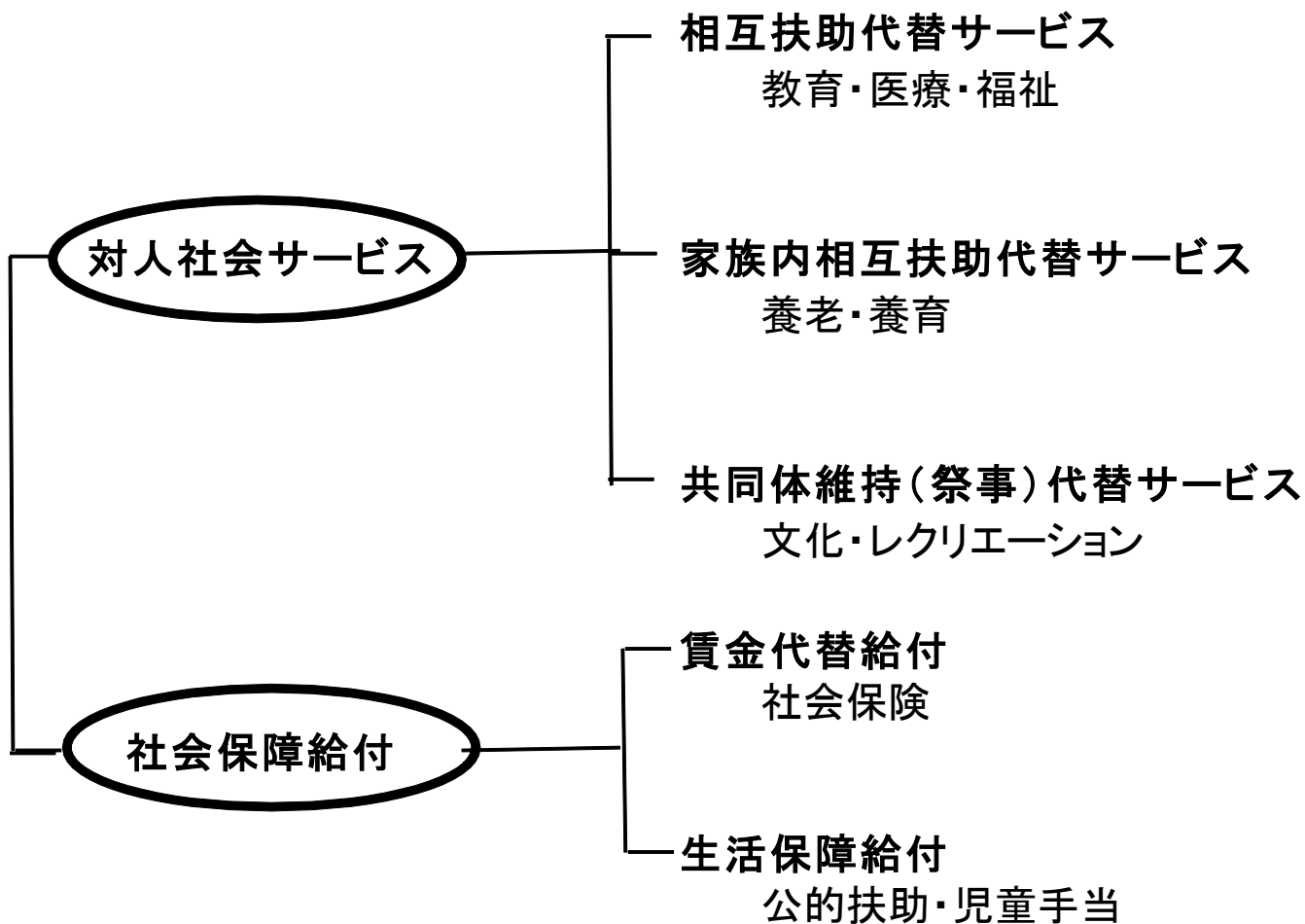
そうすると、育児や高齢者ケアなどの人的サービスを社会保障として提供しないで、ポスト工業社会の労働市場への参加を保障しないと格差と貧困に溢れてしまう。

(2)「社会サービス国家」へ舵を切れないで いる日本

出所:OECD “OECDStat.”
http://stats.oecd.org/Index.aspx?DataSetCode=SOCX_AGG
 大阪市立大学 水上啓吾氏作成



(3)社会システム支持サービスの拡張—共同体的人間関係のリハビリ機能



6. 「悲しみの分かち合い」としての社会サービス

(1)社会サービス(social service)を意味するオムソーリ(omsorg)の原義は、「悲しみの分かち合い」。

(2)社会サービスの二類型

①人間の個人としての機能障害への支援・代替サービス

→障害者・高齢者へのケアサービス

②人間と人間との関係の機能水準への支援・代替サービス

→児童福祉(child welfare)、児童保護(child protection)、家族政策(family policy)。

(3)ポスト工業社会への移行にともなって、家族機能の弱体化→脱家族化(defamilization)政策の展開→家族の関係性への支援・代替という認識が高まる。

(4)「子ども保護(child protection)モデル」

「家族サービス重視(family service orientation)モデル」

→「子ども中心(child-focused orientation)モデル」

子どもの権利を親の権利よりも高く位置づける。

(5)貧困や虐待から子どもを保護する→子どもの生育環境とウェル・ビーイングを向上させる。
→社会投資国家

7. 「政府縮小—市場拡大 (less state- more market)」から

「市場縮小— 社会拡大 (less market- more society)」戦略へ

(1) 「所有(having)欲求」から「存在(being)欲求」へ

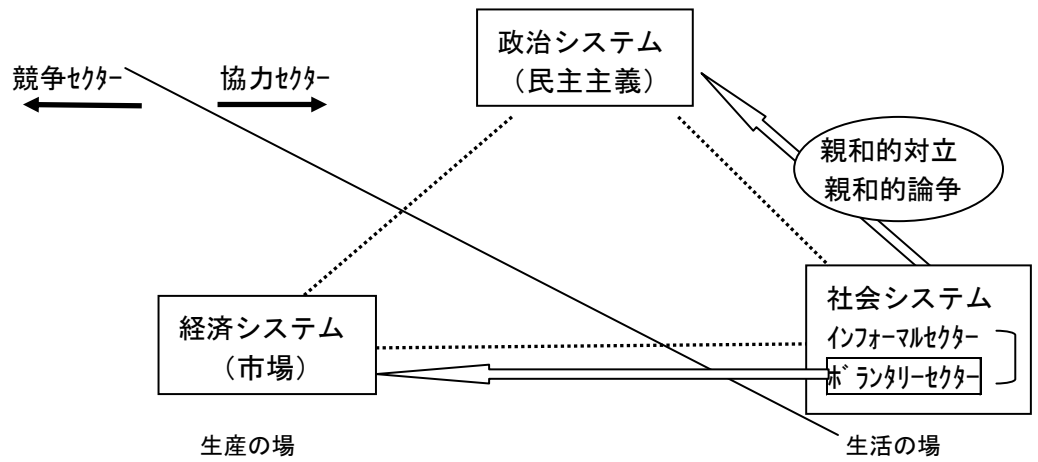
①生活水準の上昇から生活様式の充実を求める—「豊かさ」から「幸福」へ
「飢餓の恐怖」からの解放

②存在欲求 = 人と人、人と自然との関係で充足される欲求
= 幸福の実感

所有欲求 = 自然を所有することによって充足される欲求
= 豊かさの実感

③工業社会 = 存在欲求を犠牲にして所有欲求を充足した社会

(2)欲望の「奪い合い」から幸福の「分かち合い」



8. 類的本質を取り戻す「懐かしい未来」

(1)市場社会での人間の生活は、所得(貨幣所得)と共同体的人間関係(帰属所得)で支えられる。

生活困窮は単に所得が低いというだけではなく、共同体的人間関係の消失が生じる。

(2) 類的本質を取り戻すことで、功利主義を乗り越える。

「人間の本質は、ただ共同制社会(Gemeinschaft)のうちに、すなわち人間と人間の統一のうちにのみ含まれている」

(3) Boys, be ambitious, not for money, not for selfish accomplishment, not for that evanescent thing which men call fame.

金のためではなく、利己的な功績のためではなく、
人が名声と呼ぶあのはかないもののためでもなく、少年よ大志を抱け

(4)やさしさ、謙譲、心のゆとり

わたしは日が照っていないときでも
太陽の存在を信じます
愛を感じることができなくても
愛の存在を信じます
神が沈黙しているときでも
神の存在を信じます

第二次大戦で爆撃された
ケルンの地下室にしるされた言葉